

設」

日本道路公団 札幌建設局 殿

本技術開発は、橋梁工事の中でも特に省力化の進んでいないPC斜π橋形式の跨高速道路橋のプレキャスト化を図るために(財)高速道路技術センターに「跨高速道路橋のプレキャスト化に関する調査検討委員会」を設置し、PC斜π形式橋10橋を対象に、ショートラインマッチキャスト設備を用いたセグメント工法など2工法について、跨高速道路橋の問題点の抽出・試験施工・標準化の検討などを行って、プレキャストセグメント工法におけるセグメントの製造から施工に至る総合的開発・改善を行ったものである。主要な開発・改善点を挙げると、①主桁断面を等桁高の箱桁断面とし、壁高欄までを工場内に設けたショートラインマッチキャスト設備による一体製造により、1日1セグメント製作を可能にしたこと、②これによって場所打ち工法に比べて現場作業員数が半分以上の省力化を可能ならし

めたこと、③通常約3カ月かかる斜π橋の工期をプレキャスト化により約1/3に短縮できること、④工事費は場所打ち工法と同程度以下におさえられること、さらに、⑤冬期間の工場内でのセグメント製造が可能である利点を生かすために、夜間気温-15℃でも施工性が確保でき、かつ、強度発現も十分な接着剤を開発して、寒冷地におけるセグメントの冬期現場架設を可能にしたこと等である。この工法は北海道横断自動車道清水IC～芽室IC間の跨高速道路橋に適用され、寒冷地における跨高速道路橋の冬期建設のみならず、広く一般の高速道路橋の架設にも適用できるプレキャストセグメント工法の開発・改善であることが実証されている。よって本工法の開発は技術開発賞に値するものと認めた。

〔記：六車 熙

〕(プレストレストコンクリート技術協会賞選考委員長)

■報 文

## 1995年フレシネー技士海外研修生の研修を終えて

極東鋼弦コンクリート振興(株)

弊、極東鋼弦コンクリート振興(株)は、1995年度フレシネー技士海外研修団を組織し、2月27日より3月21日の間、欧州におけるフレシネー工法関連の工事現場見学に派遣いたしました。

研修団はこの間FI社本社訪問をはじめ、フランス国内における関係工事および建造物、さらにベルギー、デンマーク、スイス、スペイン、の各国において種々のPC工事現場および建造物を見学し、3月21日午後全員無事帰国されました。

今回の海外研修団は、団体旅行形式をとり、FI社側もそれぞれ特徴のある工事現場の視察を準備し、建設工事だけでなく、二箇所のメンテナンス工事現場をも見学することができ、研修団にとって良い企画であったと考えます。15名の研修団の団長をつとめられた住友建設(株)の石黒政美氏からは、「23日間の海外研修期間を通じ、日本との仕事の進め方の違いが、国土、国民性、社会生活の違いからくる、文化・歴史の相違によるものと理解できた」という感想が寄せられております。

なお、研修団メンバーは、次のとおりです(順不同、敬称略)。

山本 博司(日本鋼弦コンクリート)

畑中 俊治(ピー・エス)

松村 勝治(興和コンクリート)

渡辺 准一(安部工業所)

恒川 克己(ドーピー建設工業)

鷹巣 恵一(日本高圧コンクリート)

山崎 直政(富士ピー・エス)

石黒 政美(住友建設)

山岡 紘(昭和コンクリート工業)

新川 浩(ピーシー橋梁)

上野 成知(エムテック)

林下 敦(オリエンタル建設)

岡本 浩(飛鳥建設)

古林 崇(川田建設)

速水 光生(大日本土木)

〔記：菅原 操

〕(極東鋼弦コンクリート振興(株) 取締役副社長)